

第1回理事会報告

- 日時 平成21年4月14日(火)午後1時～2時
- 場所 日本歯科医師会 801会議室
- 出席者 <会長> 江藤一洋
<理事> 住友雅人、黒崎紀正、栗原英見、荒木孝二、
山崎芳昭、江里口 彰、峰 正博、
上西秀則、寺下正道、福田仁一、後藤滋巳、
米満正美、中寫 裕、岡野友宏、朝田芳信、
伊藤公一、福島和昭、工藤逸郎、高津茂樹、
佐藤田鶴子、森崎市治郎、東理十三雄、川添堯彬、
覚道健治、田上順次
- 日本歯科医師会
<会長> 大久保満男
- 国際歯科学研究学会日本部会 (JADR)
<監事> 大谷啓一
- 欠席者 <理事> 井出吉信、佐々木啓一、山根源之、高田 隆

[議長 江藤会長]

1. 開 会

江藤会長より、開会の挨拶がなされた。

2. 挨 拶

江藤会長より、新執行部発足にあたっての抱負が、要旨、以下の通り述べられた。

本執行部でまず取り組むべきことは、前執行部において掲げられた重点項目事業の検証である。歯科界の置かれている状況は非常に厳しいが、関係団体と連携を取りながら良い方向を目指していきたい。

先日、マイアミで開かれた国際歯科学研究学会 (IADR) のカウンセルミーテ

ィングに出席した。同学会の日本人会員数は約 1,800 名と、米国に次ぎ第 2 位である。多くの委員会へ日本のメンバーが参画していることで、わが国の発言力は増してはいるが、中国の追い上げが著しい。国際社会における日本の競争力強化に努めていきたい。

また、入学者数が定員を割った歯科大学・歯学部が多いと聞き及んでおり、歯科医学の研究、教育基盤が脆弱化するのではないかと危惧している。歯科医療の発展のために歯科医学は貢献していかなければならず、この問題を意識しながら、各分科会と意見を交換し、新たな重点計画を策定していきたい。

引き続き、大久保日歯会長より、要旨、以下の通り述べられた。

3 月 21 日に首相官邸で行われた「経済危機克服のための有識者会合」の社会保障会合に出席し、中期的な視点から歯科医療の果たす役割について説明をしてきたところである。

その中で、静岡県立大が実施した、同県 80 歳以上在宅高齢者の生活と健康に関する調査結果について、8020 達成者は非達成者と比して、意欲的に社会活動に参加を希望していると報告。経済的な側面からみるならば、健康的な高齢者は健康的な消費者になりうる旨説明した。

我われが要望する際には、EBM に裏付けされた説得力のある説明が求められてきている。日歯、日歯学会の役割を分担しながら、手を携えて任期を務めていきたい。

3. 決定事項

(1) 理事の指名

江藤会長より、既に第 81 回評議員会において事前承認を受けている、専門分科会、日本歯科医師会会長並びに学会会長指名の理事について、資料に基づき報告がなされた。(下表参照)

(2) 副会長の指名

江藤会長より、既に第 81 回評議員会において事前承認を受けている標記について資料に基づき報告。(下表参照)

(3) 総務理事（1名）、常任理事（12名）の指名

江藤会長より、既に第81回評議員会において事前承認を受けている標記について、資料に基づき報告。（下表参照）

役 職	氏 名	所属（勤務先）
会 長	江 藤 一 洋	東京医科歯科大学名誉教授
副 会 長	住 友 雅 人	日本歯科大学生命歯学部長
副 会 長	井 出 吉 信	東京歯科大学教授
総務理事	黒 崎 紀 正	東京医科歯科大学名誉教授
常任理事	川 添 堯 彬	大阪歯科大学学長
	佐 藤 田鶴子	日本歯科大学生命歯学部教授
	山 崎 芳 昭	日本歯科医師会常務理事
	福 田 仁 一	九州歯科大学学長
	江 里 口 彰	日本歯科医師会常務理事
	寺 下 正 道	九州歯科大学教授
	上 西 秀 則	福岡歯科大学教授
	伊 藤 公 一	日本大学歯学部教授
	後 藤 滋 巳	愛知学院大学歯学部教授
	栗 原 英 見	広島大学教授
	荒 木 孝 二	東京医科歯科大学教授
	佐々木 啓 一	東北大学教授
理 事	工 藤 逸 郎	日本大学名誉教授
	高 津 茂 樹	日本歯科医療管理学会会長
	東 理 十三雄	日本歯科大学名誉教授
	山 根 源 之	東京歯科大学教授
	米 満 正 美	岩手医科大学歯学部教授
	福 島 和 昭	北海道大学教授
	岡 野 友 宏	昭和大学歯学部教授
	覚 道 健 治	大阪歯科大学教授
	峰 正 博	日本歯科医師会理事
	森 崎 市治郎	大阪大学教授
	中 寫 裕	明海大学歯学部長
	高 田 隆	広島大学歯学部長
	田 上 順 次	東京医科歯科大学歯学部長
	朝 田 芳 信	鶴見大学歯学部教授

4. 理事会議長

江藤会長より、理事会の議長の選出について諮られ、学会規則第20条第2項で「会長が理事会の議長となる。」と規定されているとおり、江藤会長が理事会の議長になることを全会了承。

5. 役員自己紹介

各理事より自己紹介がなされた。

6. 報 告

江藤会長より、次の資料に基づき、報告がなされた。

また、本学会と関係団体との連携強化を目的とし、理事会オブザーバーとして日本歯科総合研究機構、日本学術会議、国際歯科研究学会日本部会(JADR)より代表者が出席する旨報告。

日本歯科医学会規則集(平成21年4月)

平成21年度日本歯科医学会事業計画

平成21年度学会会計収支予算書

日歯及び日歯連盟役員名簿

7. 協 議

(1) 役員の前位の決定について

黒崎総務理事より、標記について諮られ、年齢順による原案を全会了承した。

(2) 副会長、常任理事及び理事の業務分担について

黒崎総務理事より、役員の前位業務分担について諮られ、会長一任とすることを了承。

その後、江藤会長より、役員業務分担案が発表され、全会これを了承した。

(3) 理事会、常任理事会の開催・運営について

黒崎総務理事より、標記について諮られ、諸会議の前位スケジュールを確認した。主な確認事項は次のとおり。

[理事会]

○定例理事会は年4回とし、4月、7月、10月、1月に開催する。

○臨時理事会は必要に応じて、随時開催する。

○会議時間は、原則として午後3時から同5時までとする。

[常任理事会]

- 定例常任理事会は、毎月1回、第2金曜日に開催する。(祝日に重なった場合は調整する)
 - 臨時常任理事会は必要に応じて、随時開催する。
 - 会議時間は、原則として午後2時から同4時までとする。
ただし、同日に理事会を開催する場合は、午後1時から同3時までとする。
また、学会総会常任委員会を同日に開催する場合は、午後3時から5時までとする。
- ※理事会並びに常任理事会当日は、各種委員会及び審議会の開催は避ける。

(4) 常任理事会への委任事項について

黒崎総務理事より、標記について諮られ、原案どおりの委任事項を確認した。

(5) 常置委員会委員の委嘱について

黒崎総務理事より、標記について諮られ、各委員会構成員数について原案通り了承するとともに、委員の人選については会長一任とした。

- 日本歯科医学会誌編集委員会 (5名)
- 英文雑誌編集委員会 (5名)
- 歯科学術用語委員会 (3名)
- 学術研究委員会 (21名)
(各専門分科会より1名推薦)
- 学術講演委員会 (5名)
- 顕彰審議会 (6名)

江藤会長より、歯科学術用語委員会委員の構成員数について、前執行部において日本歯科医学会学術用語集を発刊したところであり、次期改訂作業に入るまでは、同用語集への意見集約に要する人数でもって、運営していく旨補足説明。

江里口常任理事より、顕彰審議会の会議回数について、前執行部では2回にわたり審議していたが、事前に必要な資料が準備できており、1回の開催で審議されたいと要望があった。

それを受け、江藤会長より、予算措置にも関係することなので、弾力的に対応していきたいと回答。

(6) 臨時委員会等の設置並びに委員の委嘱について

黒崎総務理事より、標記について諮られ、設置、人選については江藤会長一任とした。

○専門分科会資格審査委員会(7名)

○歯科医療協議会(6名)

○歯科医療技術革新推進協議会(8名)

○専門医制協議会(5名)

○専門医制審議会(5名)

○歯科診療ガイドライン調査研究協議会(5名)

○国際交流委員会(5名)

○広報委員会(5名)

○選挙管理会(5名) /任期:平成20年4月1日~平成22年3月31日

(7) 事務引継について

黒崎総務理事より、標記について資料に基づき説明があり、事務引継事項及び前執行部における委員会活動総括報告の確認を行った。

(8) 学会役員就任の挨拶状について

黒崎総務理事より、標記挨拶状の文面及び送付先について諮られ、協議の結果、原案どおり全会了承。

(9) 代表者会議の開催について

黒崎総務理事より、標記について資料に基づき諮られ、協議の結果、原案通り承認。

[開催日] 第1回会議 平成21年7月10日(金)午後1時30分

第2回会議 平成22年1月12日(火)午後1時30分

(10) その他

役員懇親会を次回理事会(7月10日)終了後に開催することを確認した。

8. 閉会

江藤会長より、閉会の辞。